

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表（公表）

公表：平成 31 年 1 月 15 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」豊中駅前校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			同時刻に指導員数の利用者を受け入れているため、時間帯や支援の組み合わせ、児童の特性に合わせてスペースを作っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			法令基準を満たす職員数を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			過度な情報にならないようにシンプルなつくりの環境で障がい特性に合わせて配慮している。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			PDCA サイクルとして明確に動いていない場合も多いので、広く職員同士意識できるように明文化していく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			今回のアンケートをもとにすぐに改善できるものと段階が必要なものとに分類化し、業務改善につなげる。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			事業所内で評価結果を周知するとともに、評価・改善内容について社内で集約しホームページにて公開する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価は現在行っていない。今後必要に応じて検討していく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			社内の発達支援研究所が職員の資質向上のための初任者研修・定例研修を実施している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			定期的に聞き取りにてアセスメントを行い、体験・支援計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			アセスメントシート、NC プログラム、SDQ プロファイルでアセスメントを実施している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			児発管と担当指導員、必要に応じて他の指導員のアドバイスを得て支援プログラムを立てている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			日々振り返り等で近々の状況を確認し、プログラムに活かしている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日・休日関係なく 1 時間の支援であるため課題を大きく変えることはないが、児童の状況に応じて配慮している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別療育に加え、小集団での SST も実施している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			始業時のミーティングにて必要な連携の確認を行っている。

⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終業前のミーティングでその日の状況の確認、次の日の必要事項を確認している。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の記録を取り、支援の検証・改善につなげている。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			日々の振り返りに加え、定期的にモニタリングで支援計画について見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○			児童のニーズに合わせて複数組み合わせ、支援を行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管および担当指導員が参画している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか		○		連携の姿勢はあるが、ニーズがなく実施していない。家庭や相談支援機関とうまく連携して実施していきたい。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	ハード面や時間設定から利用される方は現在いないが、利用されるのであればきちんと連携を取っていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	連携の姿勢はあるが、ニーズがなく実施していない。家庭や相談支援機関とうまく連携して実施していきたい。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか				該当の利用者なし。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			児童発達支援センターと連携をとり、助言や研修を受けている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	交流する機会がないため、職員に見学に行ってもらうなど交流と理解を深め、一緒にできる方法があるか探っていく。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			会議が実施されるときは参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			日々の振り返りの中で共通理解を持っている。
保護者へ	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	家族へのアドバイスや相談に乗ることはあるが家族支援プログラムとして明確には行っていないため、今後勉強していきたい。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に丁寧に説明している。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			日々の振り返りやモニタリング時、必要に応じて時間を取って保護者の相談に応じている。

の 説 明 責 任 等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	実施したことはあるが、広く周知されていないため、定期的に機会を作っていく。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			迅速に対応している。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			○	1～2ヶ月に1回会報を発行し、活動概要や予定、防災訓練や必要と思われる周知事項について定期的に発信していく。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			鍵のかかる書庫にて管理している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚的ツール等を活用している。
非 常 時 等 の 対 応	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	地域の方が参加できるようなイベントは実施していないが、問い合わせがあればどの方でも来ていただけるようにしている。
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			各種マニュアルを策定し、種々の事案に対する訓練も月に1回程度実施している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			非常災害に対する定期的な訓練を行っている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			1年に1回以上研修を行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束について、運営規程や重要事項説明書に明記し、該当する児童がいれば対応していく体制を整えている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	支援中に食事をとることがない。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットの事例について自事業所の分はもちろん自社提携の事業所の情報も共有している。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価の集計結果（公表）

公表：平成 31 年 1 月 15 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」豊中駅前校 保護者等数（児童数）33 回収数 21 割合 64%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見、ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	2	1	同時間帯に 4 名の療育を行っており、療育スペースが足りない。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	15	6		
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	9	1	
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画 ⁱ が作成されているか	21			
	⑤	活動プログラム ⁱⁱ が固定化しないよう工夫されているか	20	1		
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	6	13	
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	1		
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	2	1	
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3	17	
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	14	7		
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19	2		
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6	15		
	⑭	個人情報に十分注意しているか	20	1		

非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15	6		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	12	4	
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	18	2	1	
	⑱	事業所の支援に満足しているか	19	1	1	

i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

ii

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。